

平成29年度JAIST修了者アンケートの結果（10年版）

1. 調査の概要

① 調査目的：

大学院における教育の成果は修了10年、20年を経ってから判明するという認識の基に、修了後10年及び20年を経た修了生から意見を聴取し本学の教育内容・方法の改善に役立てることを目的とする。

② 調査対象：平成18年度修了者369名のうち、所在不明者74名を除く295名

③ 調査内容：

1. 入学時の状況について
2. 現在の勤務先について
3. 大学院の教育方針について
4. 本学での学修成果について
5. これからの大学院教育について
6. ご意見

④ 調査期間：平成29年12月8日～平成30年1月12日

⑤ 調査方法：

本学が把握済みの現住所又は帰省先へ郵送。
同封の返信用封筒（送料本学負担）で返送又は本学ホームページから回答するよう依頼した。

⑥ 調査数：

発送数 224件（宛先不明返送71件を除く）
回答数 29件（うち郵送5件、ホームページから24件）
回収率 12.9%

<研究科・課程別内訳>

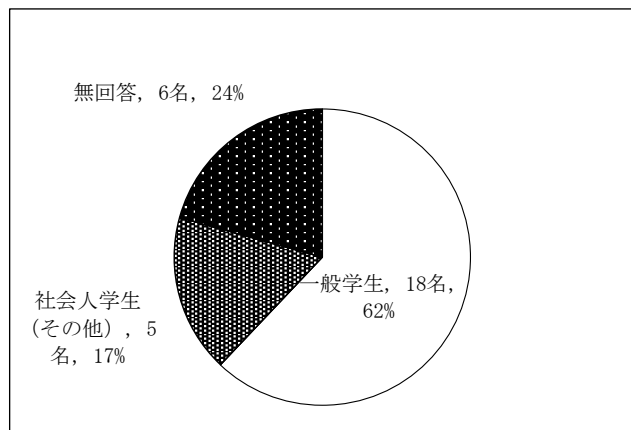
知識科学研究科	博士前期課程	6名／101名	博士後期課程	0名／11名
情報科学研究科	博士前期課程	7名／107名	博士後期課程	1名／22名
材料科学研究科	博士前期課程	7名／107名	博士後期課程	2名／21名

※ ホームページから回答した者のうち、6名は回答が不完全であったため、回答数と内訳の人数の合計は一致しない。

2. 調査結果

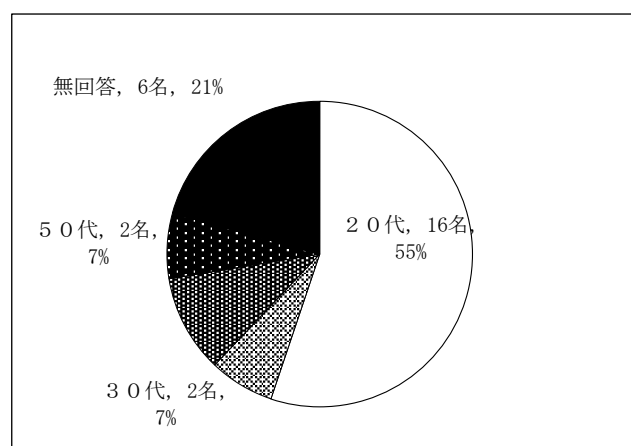
【1. 入学時の状況について】

1-1. 在学区分



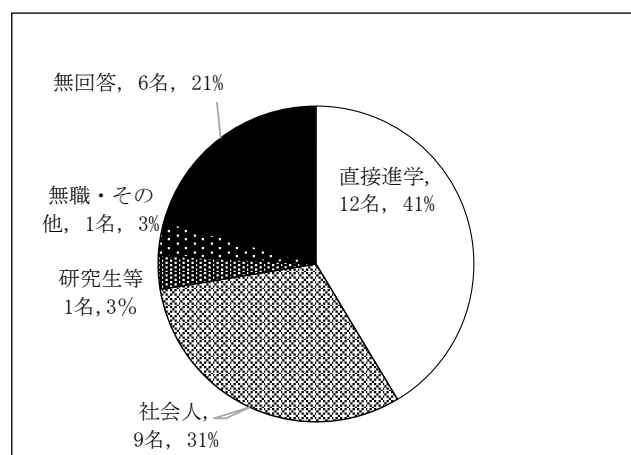
1	一般学生	18名
2	社会人学生(企業派遣)	0名
3	社会人学生(その他)	5名
4	外国人留学生	0名
	無回答	6名
	合計	29名

1-2. 入学時年齢



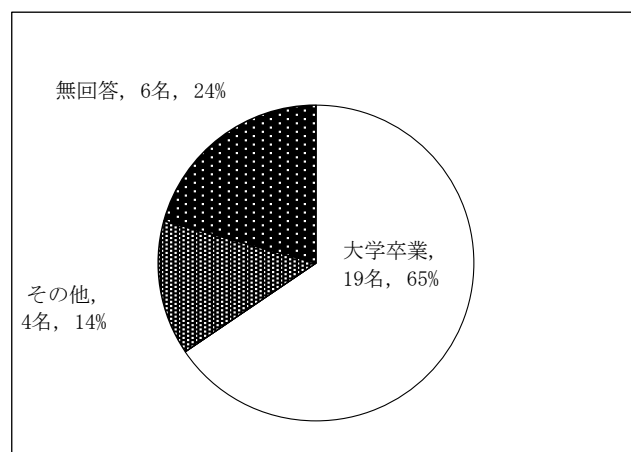
1	20代	16名
2	30代	2名
3	40代	3名
4	50代	2名
5	60代以上	0名
	無回答	6名
	合計	29名

入学時経歴



1	直接進学	12名
2	社会人	9名
3	研究生等	1名
4	無職・その他	1名
	無回答	6名
	合計	29名

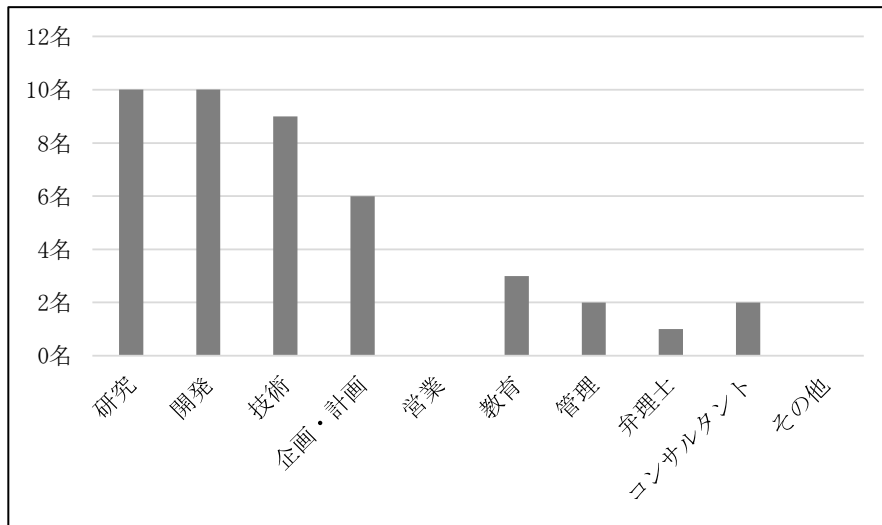
入学時学歴



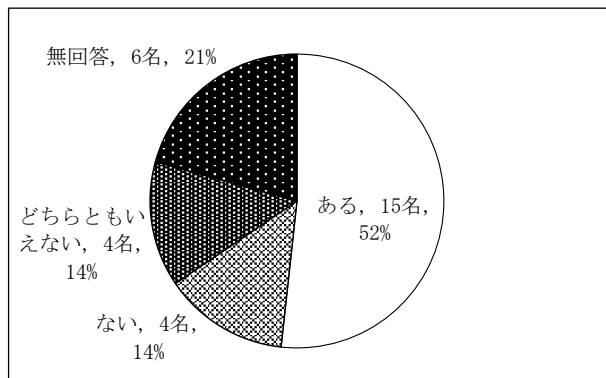
1	大学卒業	19名
2	高専専攻科修了	0名
3	飛び入学/大学退学	0名
4	その他	4名
	無回答	6名
	合計	29名

【2. 現在の勤務先について】

2-2. 現在の部署・職業の性質について（複数回答可）



2-3. 本学における学修内容と現職との関連性について

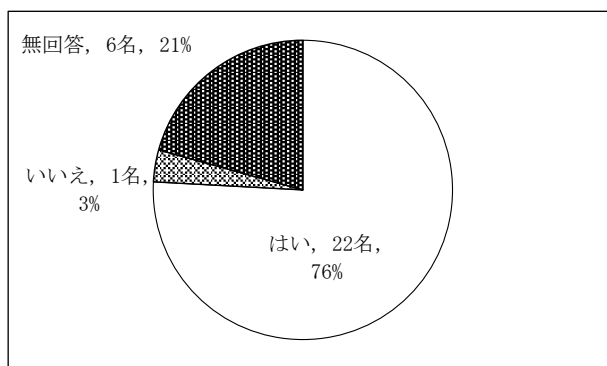


1	ある	15名
2	ない	4名
3	どちらともいえない	4名
	無回答	6名
	合計	29名

【3. 大学院の教育方針について】

3-1. 本学は、幅広い知識を体系的に修得させることを目的とし、大学院教育において以下のような新たな試みに取り組んできましたが、以下の取り組みは、現在のあなたに有益ですか。「いいえ」の場合は、その理由及び有益とするための改善案等がありましたらご記入ください。

・体系的なカリキュラム（講義項目）について

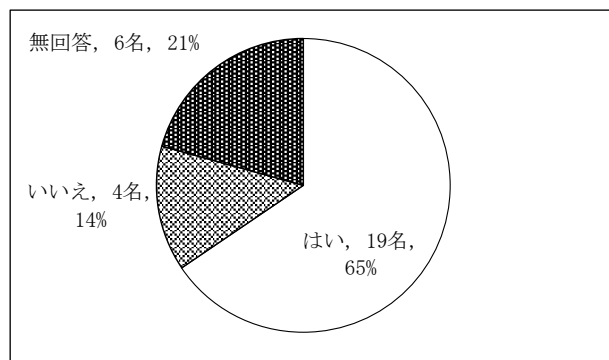


1	はい	22名
2	いいえ	1名
	無回答	6名
	合計	29名

《理由・改善案》

- ・「体系的なカリキュラムに基づく講義科目の履修」がどういうものであったか思い出せない。
- ・情報科学を幅広く学べた。

・副テーマ研究について

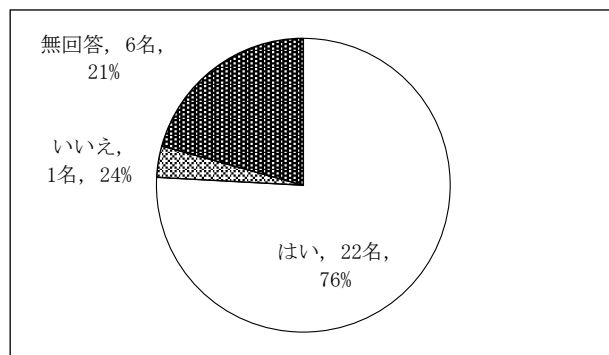


1	はい	19名
2	いいえ	4名
	無回答	6名
	合計	29名

《理由・改善案》

- ・主テーマのみに偏らずに視野を広げられたため。
- ・不要。
- ・研究科の枠を超えた副テーマとすれば、もっと自分の可能性を広げられるように思った。
- ・時間に追われてしまう結果が多く、有益な成果につながっているか疑問。
- ・期間が短く得るものが少なかったと思うため。

・複数教員指導制について

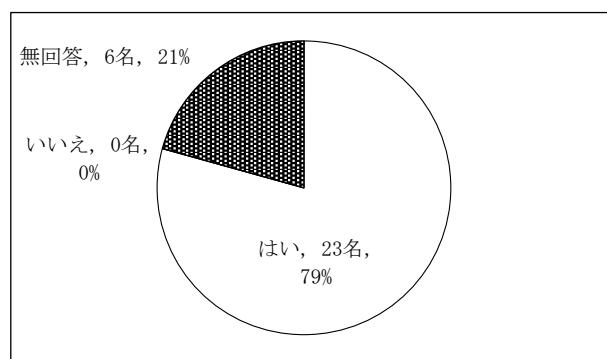


1	はい	22名
2	いいえ	1名
	無回答	6名
	合計	29名

《理由・改善案》

- ・どのような指導を頂いたか、覚えていません。申し訳ありません。
- ・視野が広がったため。

・修士論文研究・博士論文研究について



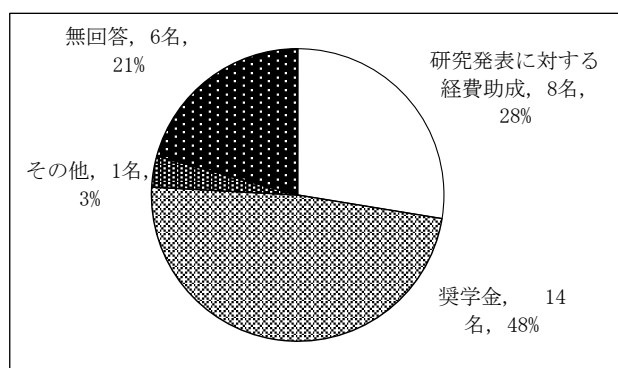
1	はい	23名
2	いいえ	0名
	無回答	6名
	合計	29名

《理由・改善案》

- ・大規模コンピューティングを体験できたことは現在の職務に役に立っているため。

3-2. 大学院教育において最も必要（有効）と思われる制度等について（単数回答）

・学生への支援

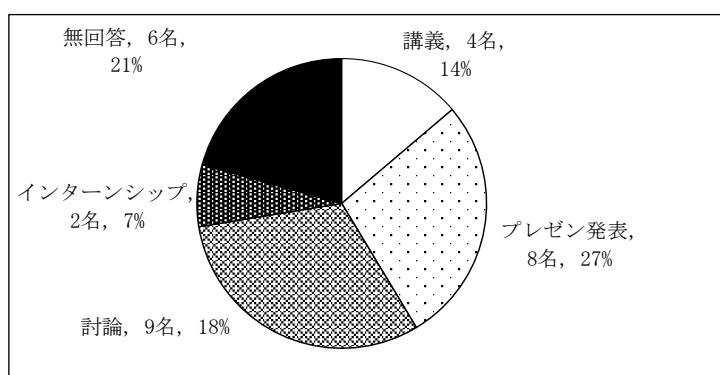


1	研究発表に対する経費助成	8名
2	奨学金	14名
3	その他	1名
	無回答	6名
	合計	29名

《その他の内容》

- ・給付型奨学金
- ・自分の研究に対し、お金をもらうことで、責任感が芽生える

・授業の形態

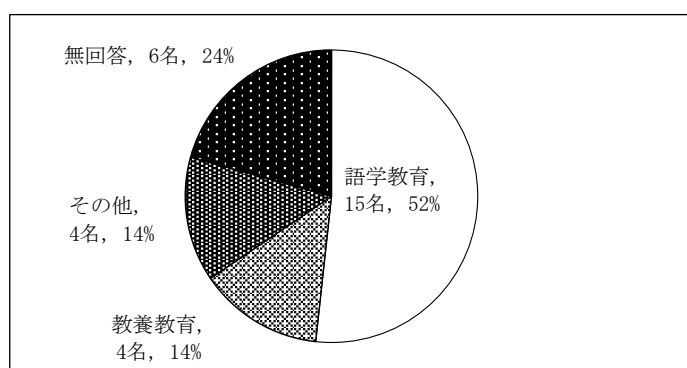


1	講義	4名
2	プレゼン発表	8名
3	討論	9名
4	インターンシップ	2名
5	その他	0名
	無回答	6名
	合計	29名

《その他の内容》

- ・ディベートの能力があった方が、社会人生活には役に立つ

・専門以外の教育



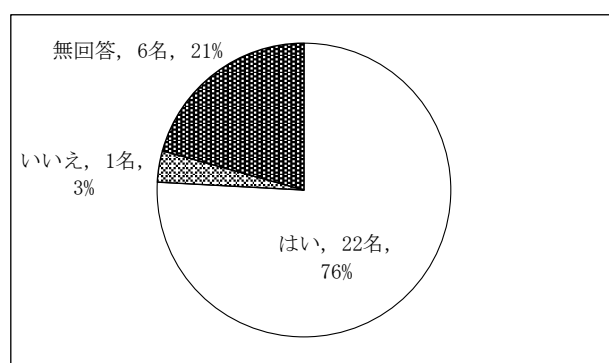
1	語学教育	15名
2	教養教育	4名
3	その他	4名
	無回答	6名
	合計	29名

《その他の内容》

- ・プレゼン、作文能力
- ・他研究科の受講を義務付けてもらいたかった。ITスキルは社会人で必須であるし、教養も周囲の人とビジネス上で会話の糸口になりうる。人間力強化プログラムをもっと具体化してもよいのではないか。
- ・専門以外は興味のある分野の本を読むくらいでいいと思う。
- ・シンポジウムなどの外部の発表会への参加

【4. 本学での学修成果について】

本学での学修成果は、現在のあなたに有益ですか。



1	はい	22名
2	いいえ	1名
	無回答	6名
	合計	29名

《具体的な理由》

<知識科学研究科>

- ・限られた時間内でワークショップを通じて考え方の異なる人達と意見を集約していくプロセスは、役立っています。
- ・就職後10年経ちましたが、JAISTで学んだ“視点”は、入社後しばらくは直接役立たなくても、社内で専門知識・業務知識を付けた後、新しいことをはじめようとするとき、重要なバックグラウンドとして生きてきているように感じます。
- ・各種講義で学んだ内容を昇華・統合化して、社内の研究開発活動やコンサル活動で活用しているため。四画面思考法やコミュニティプラクティスなど。
- ・幅広い考え方に育っている。
- ・技術経営 (MOT) について体系的に学べたこと。学友や先生など有益な人材ネットワークを作れたこと。知識科学を学べたこと。

<情報科学研究科>

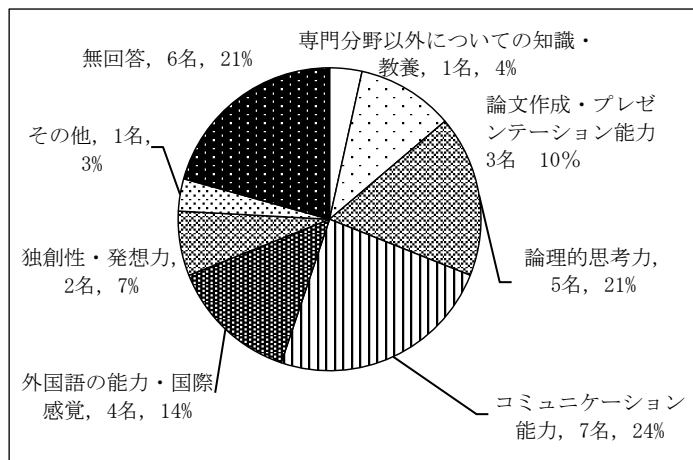
- ・専門外からの入学を許可し、2年間で集中的に学習できたため。
- ・今の仕事内容には無関係になってしまったので。
- ・大学院時代に学習した内容が現在の業務内容の大元の基礎となっており、大変有益であると感じている。
- ・情報科学の修士を取ったことで、現在の部署【システム開発】にスムーズに配属された。
- ・研究の道は難しいということが経験として理解できたため。
- ・多かれ少なかれ力になり、有益であった。

<材料科学研究科>

- ・現在人並に生活できているのはJAISTで受けた教育のおかげで間違いありません。 主指導教官と助教の先生のおかげで、自主的に勉強する習慣が付いたことが私の人生を変えたと言えます。
- ・現職での課題に対して体系的に組み立てて取り組む能力を身に付けられたと考えております。先輩だけでなく指導教員ともっとコミュニケーションをとる環境や機会があったにも関わらず、その環境を生かしきれなかった部分もあったように感じその点は自分の課題だったと思っております。
- ・今でも担当教官であった塚原先生と連絡を取り合い、研究についてdiscussionをしております。
- ・専門の物理以外にも、生物、化学を学ぶことができた。広く知識を習得できた点は有益である。
- ・現在の職場で活用している知識やスキル、研究指針は、JAISTでの学修・研究活動に礎を置いているため。
- ・同じ分野の研究を続けているから。
- ・物の考え方、文章の書き方等は多少なりとも役に立っています。

【5. これからの大学院教育について】

5-1. 人材育成の観点から、学生が本学において身につけておくべき能力のうち専門分野の高度な知識とスキル以外で最も重要と思われるものについて（単数回答）



1	専門分野以外についての知識・教養	1名
2	論文作成・プレゼンテーション能力	3名
3	論理的思考力	5名
4	コミュニケーション能力	7名
5	外国語の能力・国際感覚	4名
6	独創性・発想力	2名
7	その他	1名
	無回答	6名
	合計	29名

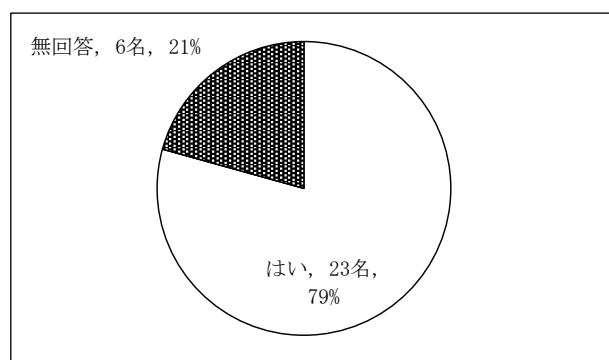
《その他の具体的な内容》

- ・特に英語は、自然な言葉遣いやプレゼンでの一般的なスキルを身につける必要がありますから、例えば民間で評価の高い語学学校（Gaba）のようなマンツーマンレッスンのプログラムを模範にすると良いのではないかと思います。
- ・ITスキルの習得。オフィスソフトやプログラム言語、データベースの知識の習得。
- ・どんなに新しい発想、すばらしい知見があっても、社内ではいかに多くの人々の共感を得て、大きな流れにするかが重要です。その際に要求されるのが、高いコミュニケーション力、プレゼン力だと痛感する今日です。
- ・これからのビジネスとしては、独創性と発想力から、世界のビジネスマンに先んじてアイデアを出し、実現させる必要がある。
- ・ある程度短期間で、他者に作業のアウトプットを伝えることのできる方法。早めに持っていた方がゼミや社会にでてからもすぐに使うスキルだから。

上記の能力を身につけるために、有効と思われる方策等がありましたらご記入ください。

- ・インターンシップ制度の拡充。
- ・サークル活動。
- ・①指導教員と課題に取り組むうえでの密なディスカッションの機会。 ②実験計画法や結果を解析するための手法（統計解析等）の理解。
- ・具体的なテーマを与え、一定期間の研究の後に、みんなの前でプレゼンテーション。
- ・必須科目にする。プログラミングコンテストなどを開催する。
- ・プレゼンなどを通じて、資料作成・説明を行い、自身の頭の整理（論理的思考）に基づいたわかりやすい説明を他人に行う。
- ・研究プレゼンや討論形式の授業を増やす。
- ・色々な体験と、圧倒的な読書量による知識の習得。
- ・社会人との積極的な意見交換。
- ・週1で報告資料を上げて添削。
- ・外国語の能力を卒業要件にすべき。
- ・リーダーとして必要なファシリテーション教育やコーチング教育を正式に受講する。
- ・文書作成力
- ・論文作成とプレゼンテーションにより論理的思考を高めるのが重要と思います。
- ・英語の中級・上級トレーニング、英語講義、中国語のトレーニングシステム思考

5-2. 本学は、現在、「グローバルに活躍できるイノベーション創出人材」を育成することを目指しています。□ これを実現するために、平成28年4月入学者から、「知識科学的イノベーションデザイン教育」を全学生の必修科目とし、さらに研究留学、国際学会等での研究発表、海外インターンシップなどを学生に推奨しています。このような本学の教育方針は、産業界等が求める人材像に沿っていると思いますか。また、この教育方針についてのご意見、ご提案がありましたらご記入ください。



1	はい	23名
2	いいえ	0名
	無回答	6名
	合計	29名

《意見・提案》

- ・知識科学的イノベーションデザインの力をつけるというコンセプトはいいが、その力がついたか、そうではないかを客観的にどのような指標で評価することができるのかがわからない。
- ・知的にたくましい人材というコンセプトは素晴らしいと思います。副テーマ研究（特に博士後期課程の）はとてもうまく機能していると感じています。これからも続けるべきだと思います。
- ・日本で開催される国際会議での発表は、大変良い機会だと思います。タイミングの問題もありますが、経験するのが一番です。副テーマであっても発表できると良いと思います。
- ・広い視野/知識を有することはとても重要なことと思う。しかしながら大学院大学という立ち位置の中で専門的な課題に取り組むことが論理的な思考をはぐくむとも思うので、バランスが重要に感じます。修士課程は2年間しかないので、その中で学生の体の中に浸透するようなすべてを網羅できるカリキュラムが整備できるとより魅力的な教育環境が構築できると思います。
- ・経験を積むのはいいこと。経験だけでなく、トピック700点などの具体的成果も求めてほしい。
- ・一定期間、国内でしっかりと学んで自分自身の土台を作った後は、どんどん海外に出て行って欲しいと思います。業務で海外(南米)企業と協力をすることがありますが、海外人材の高い専門性・発想力にはしばしば驚かされます。仕事上の知識は入社後に学べばよいので、学生時代には10年、20年色褪せない知識と専門性を身に付けておくことが自分自身の差別化にもなると思います。
- ・JAISTの副テーマ制度を更に進め、ジョイントディグリー、ダブルディグリーが一般的となるようプログラムを拡充できるのが望ましい。
- ・知識的にたくましい人材を生育するビジョンについては共感します。しかし、その知識を活かす場所を用意する、またはその方法を学ばせることが必要だと感じます。
- ・慶應大学SDMや芝浦工大等のシステムズエンジニアリングの取組み同様、知識科学も分野横断で習得しておくべき内容が多く、情報科学や材料科学の人材にも、そして知識科学の人材にも良い効果があると期待できる。
- ・副テーマ研究を知識科学的イノベーションデザイン教育の成果に結びつけられると良いのではないのでしょうか。
- ・英語力、中国語力の強化必要。

【6. ご意見】

最後に、研究室内教育や今後のJAISTに期待すること等、ご意見がありましたらご記入ください。

<知識科学研究科>

- ・ JAISTの高度専門教育は大変優れていると思います。機会をつくれれば博士後期課程に進みたいと思います。グローバル化の波に合わせた最新の教育プログラムを進化させていくのは大変な努力を要しますが、修了生として協力できることはしようと思います。
- ・ 過去の修了者のなかには、10年、20年経って改めて学びなおしたい人がいると思います。 JAISTには社会人学生としての門戸が開かれています、JAISTから他大学院・海外大学院等への紹介プログラム等があれば、修了者による人材ネットワークの拡充につながるので良いかもしれません。
- ・ 働き方改革の中で、社会人教育はますます注目を浴びていくと思われる。サテライトオフィスの益々の充実や卒業生ネットワークの活用など卒業生にとっても魅力的なJAISTであって欲しい。
- ・ 有能な社会人を送り出すことを期待しています。
- ・ 地理的に不利な状況にあると思われ、東京サテライトを中心に、先生や学生の優れた研究成果や社会トレンドなど、学外へアピールするシンポや研究会の開催を期待します。

<情報科学研究科>

- ・ 人工知能のように流行の技術の基本技術がどこにあるのか、その成り立ちも含めカリキュラムに入れて欲しい。どうしてこの学習が世の中に役に立つのかわからないままでは苦しいはず。
- ・ 企業・他の大学等との連携（産学官連携）を活発化して、成果を世に公表していただきたい。
- ・ 研究がビジネスに変わる。そのように世界に必要とされる研究が多くできればいいと思います。特許を多く取得することを目指してもいいのでは？
- ・ 社会人入学者でない方に、会社の実務経験者や社会人入学者の卒業生との意見交換会などを実施して、真に会社が必要としているスキルを認識していただくことが有用かと。

<材料科学研究科>

- ・ 広範囲の分野でJAIST知名度の更なる向上を期待します。先輩としてももっと努力します。
- ・ 発表論文の質（impact factorが高いジャーナルなど）を上げること。
- ・ 地理的に就職や研究に不利な点がある。東京大阪への出張旅費の補助、話題の研究者の招へいなどを行うとよいのではないか。
- ・ 自分の所属先は問題なかったものの、研究室教育がうまく機能していないように見える研究室もあった。せっかくの人的リソースを無駄にしないためにも、授業アンケート以外にも定期的にアンケートを活用し、指導教員へと反映する仕組みがあればよいと思う。